

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年3月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874000227		
法人名	社会福祉法人 竹育会		
事業所名	グループホーム ぬくもり	ユニット名	さくら草
所在地	〒300-2421 茨城県つくばみらい市西丸山634-2		
自己評価作成日	平成25年8月21日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0874000227-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年10月22日	評価機関 決 済 日	平成26年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念でもある普通の生活を送れるように、本人の出来る事を続け、生活リハビリや個々の趣味や好きな事を継続しながら生活しています。
又、気分転換を図る為に散歩やドライブの実施も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は田園に囲まれた自然豊かな場所に立置し、利用者は四季の移り変わりを日々の生活や散歩を楽しむ中で感じることができる。
管理者は職員と日頃から何でも話せる関係を築くなど、風通しの良い働きやすい職場の環境づくりに努めている。
近くに同一法人の特別養護老人ホームがあり、施設長が兼任しているため、特別養護老人ホームの看護師と連携を図り、利用者の健康管理をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のホーム内のケア会議にて、理念の理解や、具体的な取り組みの為、業務改善を図り、日頃の共通理念を深めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を玄関や事務所に掲示しているが、理念を話し合ったり、確認する機会には至っていない。 管理者は職員と話し合いながら、共通認識を図りやすい地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し直す方向で考えている。	管理者と職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、職員会議などで理念を振り返り、共有することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の養護学校や、地元の保育園、相撲部屋との交流事業（受入や訪問）を行っている。又、不定期ではあるが、地域のボランティアの方の慰問（ギターやマジック、大正琴）など、地域との交流を深めている。	利用者は職員と一緒に近隣の特別支援学校や保育園に出向いたり、事業所に招待したりして、歌やゲームなどを通して交流している。 ギターやマジック、大正琴などの地域のボランティアを受け入れているほか、地元の相撲部屋を表敬訪問するなど、利用者が地域の住民と交流ができるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、地域の民生委員の方に出席をしてもらい、サービスの状況報告、また施設の広報紙を通じて取り組んでいる。平成25年8月には、地域の小学生を受入れ、職業体験や認知症の方の理解を促がしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の事や行事のことなど、施設の取り組みについて、報告している。以前家族委員より要望のあった事故報告の継続などサービス内容の開示に取り組んでいる。	運営推進会議を利用者や家族等、地域包括支援センター職員、民生委員、施設長、管理者で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の活動報告や行事予定、利用状況の説明、事故報告をするほか、参加者と意見交換を行い、出た意見等を職員会議で検討してサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へ日常的に足を運び、入退所の状況や、事故等の報告、生活保護利用者の制度上の相談等々で、協力関係を築いている。	運営推進会議のほか、2ヶ月に1回開催される市内のグループホームの連絡会に市担当者が出席しており、情報交換をしている。 管理者は市担当課へ積極的に足を運び、事故報告や入退居状況を報告するほか、生活保護を受給している利用者の利用料について相談をするなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策として、玄関の施錠は行っている。職員への身体拘束をしないケアへの理解の為、平成25年4月に内部研修を実施しました。	安全対策として玄関やサンデッキに出る窓を施錠していることを、契約時に家族等に説明して同意を得ているが、書面で同意を得るまでには至っていない。 管理者は職員を対象に身体拘束をしないケアについての内部研修を行っている。	施錠に関する同意書を作成し、利用者や家族等から得た同意を記録に残すことを期待する。 解錠に向けて定期的に話し合い、施錠をしないケアに取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成25年4月に、内部研修を実施し、虐待防止についての理解、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	希望して、研修等で学ぶ機会はあるが、それらを話合う、活用までには至っていない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に丁寧に説明をし、不安や疑問点の解消を図っている。また、サービス開始後も疑問点などをその都度、担当者（管理者）が説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時や、電話等で利用状況を報告し、意見を出しやすいように配慮している。また、家族等から出た意見を推進会議に図っている。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等には来訪時や運営推進会議、イベント時などに意見や要望を聴くように努めているほか、無記名の家族アンケートを実施している。 「事故報告やヒヤリハットを開示してほしい」との意見を受け、家族会や運営推進会議で開示したり、「中庭の使い方を工夫してほしい」との意見を受けて中庭の一部を畑として活用するなど、利用者や家族等から出た意見等を運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内の会議の前に職員からの提案、意見を取り会議で反映をするようにしている。また、会議で出席できない職員からは、事前に意見を出してもらい、それらを反映できる環境を作っている。尚、日々の業務の中での意見も、会議やその他日常的に検討している。	管理者は月1回の職員会議時に職員の意見や提案を聞くとともに、出席できない職員からは事前に書面で意見の提出を求めている。 職員から出た意見等を検討し、備品の購入や勤務体制の変更、職員のユニット内異動などを運営に反映させている。 管理者は日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を出し易い雰囲気づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当、資格手当を支給している。また、管理者は代表者へ、日頃の勤務状況などを伝え、代表者は定期的にホーム内のケア会議などに参加し、職場環境の整備に努めている。代表者は自ら意見箱を設けて、職員の声を聞くように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて、希望に応じて研修（外部研修）の機会を確保、ホーム内の会議にて研修報告をして、各スタッフへの周知も同時に図っている。また、内部研修はホーム内のケア会議や、同法人の勉強会などを活用し、トレーニングの機会としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホームの連絡会で定期的に管理者同士の情報交換の機会を作り、サービスの向上を図っている。今年度は、市内グループホーム合同で事例検討会・交流会を計画している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所契約、事前面接時に生活状況を把握し、サービス開始時に本人の困り事や要望、グループホームの生活状況、状態観察に努め、安心できるようにケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約、事前面接時に家族の不安点、心配事について聞き取りをし、利用開始時にはまめに状況報告、必要に応じて相談し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所契約、事前面接時に生活状況を聞き取りし、サービス開始時のニーズを引き出すように対応している。また必要に応じて、同法人の介護支援専門員や看護師との相談をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生き活きとした行動や、言動を引き出す言葉かけをすると共に、できない部分をケアする事を基本に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて家族と連絡をとり、面会や外出（気分転換、買い物、習慣の維持）病院受診等をしてもらうように働きかけながら、協力関係を築いている。また、10月には、利用者、家族参加の食事会を計画している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族面会時等又は、電話で家族と相談し、親戚や友人、近所の方などに面会をしてもらうように呼びかけている。時には家族や職員と共に外出し、馴染みの人や場所への関係の継続を図っている。	入居時に利用者や家族等から話を聞いたり、アセスメントシートを活用し、利用者のこれまでの生活歴や馴染みの人や場所を把握している。 利用者の馴染みの人が来訪した場合にはお茶を出して接待し、いつでも気軽に来訪ができるよう配慮しているほか、馴染みの美容室や墓参り、教会などに行けるよう家族等と協力して支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の生活リハビリや食事、誕生会や行事などを通して関わり合いが持てるように支援している。又、居室内で過ごすのが好きな方でも、食事時には全員で集まるホールで過ごしてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時に必要に応じて相談援助を行い、他のサービスへの連絡、調整をして円滑にサービスの移行ができるように対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活や介助の場面での意向の把握に努め、意思表示の困難な利用者に対しては、本人の立場に立ち、家族の意向もふまえて把握に努めている。	職員は利用者がその人らしい暮らしが続けられるように日常の係わりや会話を通して希望や意向を聴いたり、家族等から情報を得たりしている。 職員は把握した内容や気付いたことを引き継ぎノートに記録し、共有している。 意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情や行動から利用者の思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所契約、事前面接時に生活歴や性格、暮らし方を聞き取り、馴染みの物を持参してもらっている。サービス開始後も必要に応じて、本人または家族に聞き取りを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人でテレビを観たい方、マッサージ、縫い物、音楽鑑賞などその方の意に沿うように過ごしてもらっている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望や意向を聞いたうえで、計画作成担当者とスタッフで話し合いをし、モニタリングやアセスメントを進め、ケアプランを作成している。	介護計画は利用者や家族等の希望や意向を取り入れるとともに、主治医や職員の意見をまとめて計画作成担当者が作成し、6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人のケース記録、ケアプランチェック表を参考に情報の共有に努め、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対しては、職員間で意見を出し、会議で検討し実施可能な物には順次取り入れている。具体的には個別の買い物やドライブ、花壇（花や果物作り）などの導入などである。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の業者やボランティアの状況などの把握に努め、ホームを認識、理解に努めている状況である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、嘱託医を希望された方は同意を得て週1回往診してもらっている。元々のかかりつけ医を希望している利用者は、家族対応もしくは職員対応で定期的に通院している。又、嘱託医は内科の為、他の科目で受診が必要な時には、家族と相談し適切な医療機関への受診の支援を行っている。	週1回協力医療機関の医師による訪問診療を受診できる体制になっているほか、利用者や家族等の希望にそったかかりつけ医への受診を支援している。 家族等の付き添いのもとかかりつけ医を受診する場合は、適切な受診ができるよう利用者の状態を書面に記して家族等に渡しているほか、家族等から受診結果の報告を受け、通院報告書に記録している。 職員付き添いのもとで協力医療機関へ受診した場合は、結果を家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には看護師がいない為、日頃より同法人の看護師と連携を取り、必要に応じて適切な受診や看護が受けられるように支援している。場合によっては、協力病院の看護師に電話にて相談を行う事もしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から退院時に備えて、病院等の相談員と情報交換に努め、必要に応じて病院へ出向いたり、電話連絡をし病状の把握や退院時に備えてホームでの適切なケアができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やそれらが見込まれる場合には、本人及び家族と相談し、同法人他特別養護老人ホームなどへの申し込み、ケアの移行を行っている。	事業所は看取りをしない方針を重要事項説明書に明記する方向で進めていたが、25年4月に新施設長になり、看取りをする方針に変更している。看取り介護を実施するための医療連携や職員研修の準備に向けて、地域の訪問看護ステーションと話し合いを始めた段階である。重度化対応・終末期ケア対応指針や意思確認書を作成したり、利用者や家族等の同意を得るまでには至っていない。	看取り介護実施に向けて、協力医療機関の医師や訪問看護ステーションと連携を図るとともに、利用者が重度化した場合に備え、重度化対応・終末期ケア対応指針や意思確認書を作成し、利用者や家族等に説明して同意を得ることを期待する。看取りに関する職員研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災発生時を中心に、避難訓練を実施している。また、平成25年8月には、外部研修にも参加した。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の消防計画に沿って毎月の訓練を行っている。尚、スタッフ全員が避難方法を周知し、実行できるように避難訓練実施チェック表をつけ、意識の向上に努めている。また、東日本大震災以降、地震マニュアルの整備、非常食の整備を行った。	年2回消防署立会いのもと避難訓練を実施し、内1回は夜間を想定した避難訓練を実施しているほか、毎月事業所独自の避難訓練を行っているが、近隣住民の参加を得るまでには至っていない。避難訓練の実施記録を作成し、訓練で明らかになった課題を全職員で話し合い、共有して次回の訓練に活かしている。災害時に備え食糧や飲料水を備蓄している。	災害時に近隣住民の協力が得られるよう、運営推進会議を通して避難訓練への参加を働きかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格を理解し、その日の体調や気分を見ながら、言葉かけや対応をしている。	職員は利用者の個性を把握し、一人ひとりの人格を尊重しながらプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務所の鍵がかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけや普段の関わりに努め、本人からの訴えが見られなくても、何か希望はないだろうか常に表情や状態の観察に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者との会話や何気ないしぐさ、言動、行動から何を望んでいるかを考え、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を選び、整容できる方は続けられるように支援している。自分では難しい方に対しては、衣類を何枚か出し、選びやすいように努めている。整容、身だしなみに関しては、起床後に整えるように支援している。又、男性は髭剃り、女性は行事時に化粧などの支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者から送られた物を調理した後、利用者に合わせた刻み食などの形態にして対応している。ホワイトボードにはメニューを記載し、利用者に見えるようにしている。また、準備や後片付けを利用者と一緒に行っている。	宅配業者による献立の食材が届き、職員が調理をして利用者と一緒に同じ食卓を囲みながら温かい食事が摂れるよう支援している。 利用者は配膳や後片付け、テーブル拭き、食器洗いなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。 誕生会や季節行事には特別食を提供しているほか、外食などを取り入れ、利用者が食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	過去の病歴や現在の身体状況に合わせて、食事や水分摂取できるように支援している。又、水分量や食事摂取量を記録し、把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて各利用者ごとのコップ、歯ブラシにて口腔ケアを実施し、就寝前に義歯の方は洗浄剤につけている。又、必要に応じて利用者によっては、訪問歯科や歯科通院をして口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を記録し、できるだけトイレでの排泄を継続できるように、時間を見ながら言葉かけをしている。拒否がある場合には無理には行なわない。又、利用者によっては、昼間はトイレ、夜間はポータブルトイレへの支援をしている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導をし、トイレで排泄ができるように支援している。 夜間は居室にポータブルトイレを配置し、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課になっている散歩や体操などの運動を積極的に行うなど働きかけている。便秘症の方には医師から処方された下剤を服用している。排便が1-3日目での服用を心がけている。又、それでも排便が見られない場合には医師に相談をし、浣腸を行う事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、浴槽は選択してもらっている。又、体調不良時には、清拭等、入浴したい希望がある場合には個別で柔軟に対応している。	週3回午後入浴を基本としているが、入浴回数などは利用者の希望にそって柔軟に対応している。 現在、入浴を拒む利用者はいないため、スムーズに入浴支援をしている。 体調不良の場合は清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の時間は、その方に合わせて取ってもらっているが、昼夜逆転しないように言葉かけをして気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のケース記録や、アセスメント表、緊急持ち出しファイルに説明書をファイルし、服薬内容を確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の好きな事、興味のある事を見極めながら生活リハビリでの役割分担をしている。又、家族と相談し趣味の物などを持参してもらい、いつでもできるように支援している。散歩やドライブも実施して、気分転換に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつやお買出しや個人の買い物などを通して、日常的に外出に努めている。又、ドライブも定期的実施し、行事等でも外出の機会を設けている。また、利用者によっては、今まで通っていた教会や美容室等、家族や近所の方の支えで継続している。	<p>天気の良い日には事業所周辺を散歩して五感を刺激したり、四季の移り変わりを楽しめるよう支援している。</p> <p>事業所の車両を利用して花見や苺狩り、花火鑑賞、菊祭りなどに出かけ、気分転換ができるよう支援している。</p> <p>事業所主催の買い物を兼ねた食事会に、利用者が家族等と一緒に出かけよう支援している。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得て、現金を所持している利用者もいる。紛失やトラブルの可能性もある為、契約時や必要に応じてしっかりと説明をしている。又、個人の買い物の時など、ご自身で使えるように支援している。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から訴えがあった場合には職員が電話をかけ、代わって話ができるように支援している。又、耳が遠い利用者には、話の内容を伝えながら支援している。手紙やはがきが送られてくる利用者もいる。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の温度調整は職員が行っている。季節ごとに創作物や行事写真、又、利用者が個人で行っている創作物などもホールや廊下に貼り出している。又、玄関や食堂、洗面所などに花や観葉植物を飾り、季節感を大切にしている。	<p>居間は天井が高く、明かり取りの窓を設置して自然光を取り入れているほか、大きな窓の向こうにウッドデッキを設置し、開放感のある居心地のよい空間になっている。</p> <p>廊下は広く、手摺を設置して歩行訓練や手押し車での移動がスムーズにできるよう工夫している。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は決まった所に座る利用者がほとんどだが、ソファや椅子をホールや通路などに配置し、誰もが好きな時にくつろげるような環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使用してきた愛用の物をできるだけ持参してもらい、配置も家族と相談しながら、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室はフローリングと畳の部屋があり、冷暖房機とタンス、カーテンが備え付けられている。 ベッドは介護用ベッドをリースで借りることもできる。 利用者は居室に好みに合わせて布団やベッドを持ち込んでいるほか、テレビやタンス、椅子など使い慣れた馴染みの物品や位牌や、仏壇など大切な物品を持ち込んだり、家族の写真などを飾ったりしており、居心地よく過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室などは、名前を大きく見やすくして、写真を貼るなどわかりやすく工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームぬくもり

作成日 平成26年3月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所独自の理念の作成し、職員会議等で理念を振り返り、共有する	施設の理念をスタッフ一同共有します。	現在の理念をスタッフで検討し、毎月の職員会議で決定した理念を共有できるようにスタッフに働きかける	6ヶ月
2	35	災害時の地域住民との協力	地域住民への接点、グループホームへの理解を促がします。	地域の町内会の実態を把握し、日々の協力や非常時の助け合いが行えるか検討します。	6ヶ月
3	33	看取り介護に向けての準備（指針や同意書）	看取り介護に向けての準備を始めます。	終末期への利用者の希望やご家族の意向を確認をします。指針や同意書の作成、準備を行います。	1年
4	6	解錠に向けて、定期的話し合い、施錠しないケア取り組む	施錠しないケアへの意識改革を行います。	個々の利用者の状況を確認しながら、定期的に会議等で実施できるかを話し合い検討します。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。